

# 巻頭言

茗溪塾教務部 03-3659-8638

2009. 6月号  
茗溪塾

## やれることからやる！（Do it now！）

茗溪塾塾長 宇野雅春

成績が上がらないと娘が悩んでいる時期（高校生の時）がありました。バスケットボール部の部長をし、生徒会の体育委員長をやり、文化祭や体育祭などの行事にも追われる毎日。部活の試合や練習、休日毎の練習試合、学校の宿題もたくさんあります。毎日勉強に向かっている姿はよく見るのですが、思うように成績が上がリません。結局、学校の先生や友達などにも相談して、娘がもってきた結論は、週一回だけ通っている塾をカットし、もっと学校の勉強に集中しようというものでした。とても理路整然としています。

ただ、そこでちょっと待てよ？という気持ちになりました。

第一の点、確かにスケジュールがきつく、でも成績を上げたいので、このままではいけないという点はわかります。でも本当に成績を上げたいのなら、部活や生徒会活動の方を軽減するべきなのに、なぜ勉強に最も関係する「塾」を整理するのかということなのです。

成績が取れないのに、塾をカットして、自分で努力を積むというのは、もっと時間もかかるし、学力部分では押さえてきた基礎学力の部分も、もしかしたら失う結果になるのではないのか。そこで、部活もやりたい、生徒会もやりたい、そして成績も上げたいということなら結論はもっと違うだろう、という疑問を娘にぶつけてみました。今の生活の状況で普通にやっけていて成績が上がるということは確かにありえません。あえて、困難な道をえらぶなら、そこに自分なりの決意や、工夫があるべきではないのか？ということ。

結局塾を辞めるという点については、上の子（兄）の一言で決着がつかしました。「成績が良いならともかく、悪いのに、勉強を切っていくのはおかしい」ということです。

確かに娘は塾へもしょっちゅう遅刻しています。自分では部活や委員会活動の後でやっとの思いで塾にたどりついているのだという気持ちが強くあったようです。遅刻をたしなめられたりすると本当に頭に來るらしく、涙ぐんで、先生をののしっていたりします。

成績を上げたい生徒なら塾を多少は優先し、遅刻しないように工夫と努力をするはずだと思うのです。結局、娘は塾をやめるという最悪の選択を思いとどまりました。

成績を上げたいという気持ちが切実なら、どんなに時間が厳しくても、その気持ちに沿って出来ることからやるしかないと思います。整理してから「さあ始めよう！」と思ってもそこから大きな効果が出てくるとは思えないのです。なぜなら、本当に成績を上げたい人は、そこまでの間に色々な試行錯誤を繰り返し、自分の状況に合った学習スタイルを確立しているはずだからです。どこが違うのか？娘の場合は、確かに普通の学生より数倍忙しい生活スタイルでしたが、「TVの前での宿題」のようにいつも勉強を引きずっていることで安心しているきらいがありました。親戚の結婚式の食事のテーブルの皿の下に「化学式」を書いた紙が忍ばせてあったことでもわかります。今にして思えば、集中してやれるときに必死で取り組むことが多忙なスケジュールの中では必要だったのだと思います。ただ引きずることで安心してしまう勉強スタイルはやはり良くないということです。その後部活が終わり、生徒会も終わりましたが、娘の勉強スタイルで良かったと思われるのは、塾を辞めないで続けていたということくらいです。時間があればばりばりに出来るというのは幻想です。

そこに陥らないために、やろうと思ったらすぐやること。やれることからやっていくうちに、そこが大きな一歩につながるはずです。夏を前に忙しさもひとしおですが、受験生は、ここで一歩を踏み出して欲しいと思います。